議会レポート

発行者　鈴鹿市議会議員 石田秀三
鈴鹿市伊船町2751　電話 371-0423
FAX 371-2469

2008.11.27 №１６１

上水道計画、大幅な変更

最大給水量25%、３万トンもへらす

この12月議会に「水道事業の設置等に関する条例」改正案が提出されます。水道の「第５期拡張計画」を変更するための条文改正ですが、そのポイントは、鈴鹿市の水道の能力である「一日最大給水量」を、12万５千トンから９万5400トンに大きく減らすことです。

どこを減らすのかというと、「長良川河口堰からの導水」計画を１万３千トンから、わずか2200トンに引き下げるのです。長良川導水計画は３年前から「凍結」されていましたが、北勢地域への給水計画４万７千トンを、１万８千トンに下げて再開します。うち７千トンは亀山のシャープ工場の分で、本当の水道水には１万１千トン、元の計画の４分の１しか使いません。また長良川の水ではなく、木曽川用水の余り水を使うのです。私たちが「長良の水は必要ない」と主張してきたことが、正しかったと証明されたのです。

国や県のムダな計画に追随してきた市は反省を

鈴鹿市の第５期計画は、このように市としての自主的な計画ではなく、国と県による「長良川河口堰ありき」の押し付けに無批判に従ったものでした。今回の変更で初めて、ほぼ正しい市の計画になるのです。もし、河口堰反対運動や議会での追及がなかったら、計画どおりそのまま進めていたら、今ごろは水道は水余りの大赤字、高い料金に泣いていたかもしれません。市はしっかりと反省しなければなりません。

しかし、問題はまだ解決とはいきません。県企業庁は、シャープ工場への７千トン分の余分な工事費を、各市町にもたせようと画策しています。これには水道局も「2200トンの受水分の負担」以上の負担はしない、県の言いなりにならないと明言しています。その姿勢を貫いてほしいものです。

中学校給食、どっちの方式がいいか？

桑名市‥冷たい弁当

鈴鹿市で中学校給食を始めようと、市教委で「検討委員会」が開かれていますが、どうも議論が最初から「弁当」方式に傾いているようです。

そこで、昨年からデリバリー（弁当）方式でスタートした桑名市に調査に行きました。この方式は、家庭から持ってくる弁当、デリバリーのＡ・Ｂメニューから「自由に選べる」もので、業者が調理・盛付した弁当を１食250円で提供するものです。平均の喫食率は70％ほどとのことです。

いろいろと担当者に聞いている中で、「衛生的に適正な温度管理のもと、給食時間まで保管する」配膳室について、その温度を聞くと「20度以下」とのことでした。業者は早朝から調理を行ない、できた料理を「真空冷却機」で20度以下に冷やし、午前９時から盛付け、11時に学校へ配送するのです。せっかく作った料理を冷やして詰める！弁当方式はこれが最大の問題だと感じました。

伊勢市‥温かいセンター方式

次に、この11月からセンター方式（調理は民間委託）でスタートした伊勢市を訪ねました。給食センターは市内９校分3000食を調理・配送しています。朝７時から調理開始、10時30分までに仕上げ、各校別に配缶して配送、２時間以内に喫食となります。保温能力の高い缶に入れるので、温かいまま配膳できるのが利点です。また、選択制はなく生徒全員が食べている、アレルギー食も「特別調理室」で作っている、とのことでした。

「デリバリー方式」は検討されたかの質問には、「自校方式かセンター方式か」の議論をしっかりした、との答えでした。

公費負担１食当り：桑名300円　伊勢240円

桑名市、伊勢市、どちらも直営ではなく民間委託でしたが、桑名市は冷たい弁当で1食当りの公費負担300円、保護者負担250円。伊勢市は小学校のように温かい給食で１食当りの公費負担240円、保護者負担257円。（センター建設費は含まず。）さて、どちらが望ましい「学校給食」でしょうか？

国民健康保険財政が赤字のピンチ！

11月17日、国民健康保険運営協議会が開かれました。そこで事務局から報告された平成20年度国保会計の決算見通しによると、なんと「８億円の赤字」とのこと。支払準備基金から５億円を繰り入れても、なお３億円の歳入不足が予想されるとのことです。

その主な原因は、「後期高齢者医療制度」への移行によって財政構造が変わったこと。加入者減による国保税の減が予想より１億６千万円、国県からの財政調整交付金が４億円、前期高齢者交付金が２億８千万円それぞれマイナスになります。国による制度いじりによって作られた赤字だといえます。

国保協議会は年内にも、この赤字対策をどうするかを議論する予定ですが、方法は二つしかありません。①国保税を値上げする、②一般会計から繰り入れる。この不景気に増税となれば、市民の暮らしに大きく影響します。当面は一般会計からの繰り入れを行なうべきです。

鈴西小手抜き工事問題、解決長期化

11月14日の市議会全員協議会で、「鈴西小コンクリート強度不足問題に関する中間報告」がありました。前回の報告では、特別教室棟のコンクリート柱29本のうち「強度が全く期待できない」が４本、「設計強度を有しない」が８本でしたが、今回はそれに加えて、大梁（はり）45本のうち2本に「設計強度を有しない」ものが明らかになりました。その原因は、建設当時のコンクリート打設時に型枠内で起こったものであると推定されています。

今後の見通しとしては、詳細調査、補強計画の策定、実施設計に１年くらいかかり、さらに工事に６ヶ月以上かかるとのことで、相当長期化することが考えられます。その間、児童や教職員にはプレハブ教室などの不便がつづきます。せめて不便をできるだけ解消するための対策が求められます。

鈴鹿市後援会の**初詣バス旅行**に出かけませんか？

とき　１月11日（日）　昼食付き4000円

行先　京都　平和ミュージアムと清水寺

申し込みは市議団・石田・森川・しんぶん赤旗集金者まで

ずいそう

思い出の中に生きる人たち

この秋は、親しかった人の葬儀が多くあり、何となくもの悲しい思いのつのる晩秋となった。80才をすぎた人なら「天寿」とも言えるが、60代、70代ではまだまだ、もっと人生を楽しめただろうとの思いが残る。

その一人、Ｍ・Ｉさんは、共産党の仲間で、いつも楽しいおしゃべりでみんなを笑わせ、その場を明るくしてくれる人だった。根っからの商売人で、訪問活動で初対面の人とでも上手に話し、こちらの話にうまく引っ張り込む能力にたけていた。ある日、商売のコツを聞いたことがあった。「とにかく、売れなくて泣きたいような時があるけど、そんな時ほどニコニコッと笑ってないといかんのよ。泣いとったら商売人はダメ。」Ｍさんのあの笑顔は、苦労と努力の中から身についたものであった。享年73才。

人生に出会いと別れは付き物だが

私が長年お世話になった地元の床屋のＹ・Ｉさん。まだ8月には頭を刈ってもらったのに、あっという間に亡くなってしまった。毎月かならず、小一時間話しながら過ごす中で、適当な世間話だけでなく、人生論のような話もよくした。二人とも「寅さん」のファンで、気が合ったのか。

遺影を見ていたらいろんなことを思い出した。もう40年も昔、高校に合格したが当時の高校は「丸刈り」、床屋さんで目をつむって長い髪をばっさり落としてもらったこと。２年後、「頭髪の自由」を勝ちとり、さっそくすそ刈りをしてもらったこと。

生まれた子どもを初めて連れて行って、ふわふわの髪を刈ってもらっている間に寝てしまったこと。ボケてきた父親を車から引っ張り出しイスに担ぎ上げて頭を刈ってもらったこと。選挙が近づくと「ポスターを店に貼ってな」と言ってくれたこと。議会中継をよくビデオに撮ってもらっていたこと、などなど床屋さんを舞台にした思い出がたくさんある。私の人生の節々を、床屋さんは鏡の中から見守ってくれていたような気がする。享年67才。

この年になると、家族、友人、知人、恩師、同志、多くの人との別れが出来てくる。悲しく寂しいが、しかしその多くの人たちの思い出や、教えられたことが、いま生きている自分を支えていてくれるのだとも思う。